

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500389		
法人名	(有)やすらぎ赤座		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	岐阜県各務原市蘇原旭町1－96－3		
自己評価作成日	平成30年12月14日	評価結果市町村受理日	平成31年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&j_gyosyoCd=2170500389-008&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成31年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ⅡユニットからⅠユニット(9人)になって少人数で目の行きどいた介護が出来るように、一人一人の個性や能力を生かし、四季折々の作業療法(手先を使ったちぎり絵や折り紙等)を行い体力作りにはゲームやラジオ体操等、又地域との触れ合いは秋祭りのお神輿の見学や地域の幼稚園の行事の見学等を楽しんでいます。又24時間医師が在中しており安心した生活が送れます。又職員は常に利用者さんとの距離を縮め寄り添う介護目指しております入居者さんの意志を尊重し明るく楽しい雰囲気作りに取り組み日々精進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者のしたいことを感じ取り、自分のペースで自由に過ごせるよう取り組んでいる。職員の定着率が高く、長年一緒に生活している家族のように明るく接している。玄関先や中庭で花や野菜を栽培し、空き地でラジオ体操やボール遊びをして、外気に触れる機会を取り、健康で穏やかな生活となるよう支援している。内科・歯科の医療機関が併設されていて、医師とはいっても連絡がとれる。重度化や看取りも医師や看護師の指導の下、チームで取り組み、利用者・家族の安心に繋げている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流・安全な生活・人とのコミュニケーション等を理念に於き挨拶や会話を通じて親近感を持っていただけるよう実践しています。	管理者・職員は利用者が安全で穏やかに過ごせるよう心掛け、地域との交流やコミュニケーションを大切にしている。地域の人と挨拶や日常会を交わし実践につながるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、祭り等の行事に参加し溝掃除等も積極的に参加して地域との交流を深めている。	空き地でボール遊びをしていると、声を掛けられたり、保育園の七夕会や運動会の見学をするなど地域と交流している。新聞を作り、地域の人が手にしやすい場所に置き事業所の理解を得られるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着会議を通して民生委員や、自治会長さんを通じて近隣ケアの集い等がある場合は参加をして認知症への理解を求めています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や、自治会長、社協、行政等との話しあい、意見を頂いて、サービスにつなげている。	会議の年間予定を配り出席しやすくし、行政・自治会・家族などが常に参加している。消防訓練を見てもらい避難方法や対策などのアドバイスを受けた。自治会には災害時の協力を依頼している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から行政とは、連絡を取りあい、協力関係を築いている。	書類の提出時やわからないことがある時に市に出向いて聞いている。市主導の地域密着会議に出席し、意見を交わしている。市から相談があり、新たに入居を受け入れた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年から身体拘束の取り組みは、地域密着運営推進会議にて、議題を取り上げて皆さんで考えて頂き実践しています。どうしても拘束をしなければいけない場合は家族の了承を得て短時間行う場合があるがそれ以外は見守りにて、介護し、玄関の施錠は利用者の安全性を考えてやむを得ず施錠するときもある。	職員は併設医療機関の勉強会に参加し、身体拘束について学んでいる。玄関から中庭・空き地に自由に出入れるが、門扉は常に施錠されている。	過去に不測の事態があったとはいえ、常態化していることや、拘束しないケアの実践について、全職員で話し合うことを期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員がお互いに話し合いを持って、虐待防止に努めています。			

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じてそのような施設入所の方がいらっしゃるときは、家族と話し合い、そういう制度があるということは参考として提案させてもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を結ぶときにしっかり説明をさせて頂き改定などがあったときは、その都度説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置して設けています。又行政でも苦情受付があるということを伝え利用するように面接時に説明します。	家族の訪問時や行事の誘いの手紙や電話をした時に、意見や要望を聞いている。健康や食事のことなどの要望が出され、それぞれに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回、話し合いの場を設けている。	管理者は、言いやすい雰囲気を作り、朝夕のミーティング時や利用者の入れ替わりの時など職員に声掛け不満や意見はないか聞いている。隣接施設で行っているカラオケに参加すればとの意見を受け、毎週参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれに合った、給与等を提供し、職員の希望を聞いて勤務体制も組み、年2回の研修場において、コミュニケーションを図り職員の考えを把握するように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中々勤務上受ける機会が少ないがパンフレット等をもって提案はしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勤務上交流は少ないが出来るだけ他の施設の訪問をしてもらうよう促している。		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面談を行いながら、何を希望しているか等、家族等と話し合いを持って安心して生活が出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族等と話し合いをして、困った事等に耳を傾けれるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の時に、その人にとって何が一番幸せかを家族と話し、施設がいいのか、在宅でも行けるのではないかなど、サービスも含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを大切にして職員は入居者の皆さんが、色々な悩みや、話を聞いて上げれる環境作りを目指している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来たときは、本人の日常を詳しく説明して、本人が安心して生活が出来ることを家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や馴染みの人との面会や外出していただき、又、友達等が来やすい環境作りをしている。	友人の訪問時には居室で茶菓子を出し、再訪を依頼している。公園、カラオケに行った時に馴染みの人と顔を合わせている。美容院や墓参りの希望があれば家族に依頼するなど関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事が終わった後も、フロアで皆さんと一緒にテレビを見たり、それについて話をして、和気あいあいに過ごしている。		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方も、遊びに來たり、相談に來たりして必要に応じて、経過を聞いて相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような暮らしがしたいか、希望を聞いてそれに少しでも添えるように努力を怠らないようにしていきたい。	居室でゆっくり話をし、一人ひとりの思いを把握している。表現が苦手な人も話しながら表情や反応を見て思いを汲み取っている。職員間で情報を交換し、思いに沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしがあるように、ひとりひとりの生活習慣を大事にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活習慣や、入所したことによる心身の状態等、その人の出来ること出来ないことの把握をして、取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6カ月に1回の割合いで、モニタリングや、短期目標、長期目標等家族と本人等で話しあいをして介護計画を立てている。	見直し時にモニタリングを行い、カンファレンスで家族の要望や医師の意見を採り入れ、介護計画を作成している。作成担当者は毎朝の引継ぎ時に職員の気づきなどを聞き、状態の変化時は、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護日誌をつけていて、毎朝のミーティング等で話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の健康状態や、日々の生活の中でその人に合った支援の取り組みをします。		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の今までの生活環境等を把握して、本人にとって安全で豊かなくらしとなるようサポートしていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望により、今までのかかりつけ医や施設のドクターに等に相談しながら適切な医療を受けれるようサポートします。	入居時、本人・家族が希望し、納得して協力医を選んでいる。内科・歯科の医療機関が併設され、適切な医療を受けられる。専門医を受診する際は、看護師が同行し普段の様子や状態などを伝えている。受診結果は、職員に周知され家族には医師より伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が気づいたこと等を看護職員に説明し適切なアドバイスや、指導をうけながら介護をしている。すぐそばにドクターがいるので、すぐドクターに報告してアドバイスをもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療を受け、いつでも帰ってこれるよう部屋の確保をして置き、医療機関の相談員とも綿密に連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面接のときにも一応終末期の事は家族や本人に伺い、本人や家族の意向に沿って動いている。	入居時に方針を説明し、本人・家族の意向を確認している。状態が変化した時は医師より家族に説明し、早い段階から話し合い方針を共有している。看護師が職員を指導し、チームで終末期や看取りに取り組んでいる。希望があれば、布団を準備し家族の宿泊も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修等に於いて、誤嚥や、怪我、等の初期治療は訓練して、事故発生時は慌てず手当が出来るように日頃から訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練・避難訓練等で避難経路の確保をして、災害時に慌てず、避難が出来るように職員間で話し合い、地域密着会議等で、一緒に避難場所の確保を決めたりと地域と一緒に考えています。	地域密着会議で地域の人と一緒に災害対策を考えている。運営推進会議ではアドバイスをもらい、協力を依頼している。年2回の消防訓練を実施し、備蓄もある。事業所から地域の人へ声掛けするまでには至っていない。	地域の人に訓練等の情報を伝え、協力体制が築かれることを期待する。

グループホームやすらぎ

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室で、ある程度のプライバシーは保たれているが部屋に入るときは必ずノックをして声掛けをしてから入るその人の人格を損ねるような言葉は一切使わないよう、日ごろから介護職員に徹底させている。	入室時は必ずノックをする、言葉遣いなどを日頃から気を付け、互いに注意し徹底している。個人的な話は居室で行い、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず、本人の思いに添うよう、自己決定が出来るように話を持っていき、悩む場合は、アドバイスをしてあげる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いを大切にし、その人のペースに合わせて生活をしてもらう。食事等も慌てず、その人に合った食事ペースでしてもらう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どこかに出かけるときや、朝起きた時など、どの服を着ようか迷う時などは、アドバイスをして支援している。美容院も本人、家族の希望により出張してもらい身だしなみに気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように彩を考えたり、後片付けのお手伝いをしてもらったりしている。	職員は、食材を見て、彩りなどを考えて調理している。利用者は力量に応じ下準備・味見・後片づけをしている。誕生日・七夕・敬老会など行事食を作り、天気の良い時はお菓子を持って公園に行き、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者さんの疾病等により水分制限・食事制限がある場合は主治医に従い、その他の場合は水分には注意しながら、必ず夜はペットボトルに各自部屋に持って行ってもらって水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人その人のケースで口腔ケアを行っている。		

グループホームやすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、声掛けをして誘導しています。日中のおむつ外しに取り組んでいる。	状態に応じてポータブルトイレを使用することもあるが、日中・夜間とも声掛けをしてトイレに誘導している。布パンツやパットなしで過ごす人もおり、一人ひとりに合わせ自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を考えて、植物繊維を多く摂取して乳製品や水分補給にをこまめに取り、運動不足にならないよう日課に体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れながら、入浴の順番を決めたりその時の体調等を考慮して入って頂いています。	職員は一人ひとりゆったり入浴することを心がけている。季節によりゆず湯やしょうぶ湯など楽しむ工夫をしている。気の進まない人には好みの湯温や湯量を増やし、時間や声掛けの仕方を変えるなどの支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房を各部屋に設置しており、部屋の温度調整をしながら、又、お天気のいい日には、布団干しをして、気持ちよく睡眠がとれるよう気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い用法・用量等は介護職員全員に周知徹底して行っています、又体調の変化に気づいた時は、すぐ医師に報告し、指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事や個人の趣味(塗り絵・はり絵・カレンダー作り等)をして頂き、洗濯が好きな人は干し物や、畳みものをして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお祭りや、花見に近くの公園等に出かけたり、又家族にお願いして、買い物に連れて行ってもらったり近くの喫茶店にお茶をしに行ったり、社協主催のカフェに参加したりして、外出の機会を作っています。	事業所内にある中庭や空き地に出て、花や野菜作り、ラジオ体操やボール遊びをしている。花見、保育園の七夕会・運動会、航空ショーに出かけている。気候が良い時は近くの公園に行き、アイスクリームを食べるのを楽しみにしている利用者もいる。	

グループホームやすらぎ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の力量に応じて支援しています。自己管理の出来る方は自分で、出来ない方は、行政等の生活支援等で管理してもらい、本人の意向に沿って欲しいものや必要な物はその都度聞いて買い物をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホール内で電話を設置していますので自由に使用出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には四季折々のお花が飾られていて、共同作業の作品を飾っており、季節感が感じられる雰囲気です。又、台所が身近にある為、その日の料理の香りが室内にあふれています。	玄関先には花や野菜作りをする中庭、ラジオ体操やボール遊びが出来る空き地、洗濯干し場がある。玄関には四季折々のみんなで作った作品や花が飾られ季節感や生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で他の方との会話を楽しんだり、天気の良い日には、庭に出て日向ぼっこを楽しんだりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や、身の回りの品を持ってきていただき好きな絵や写真を飾ったり少しでも自宅との生活に距離感がないようにしています。	テレビ・鏡台・ぬいぐるみを持ち込み、孫から送られた折り紙や好きな絵・写真を飾っている。毎日遺影に手を合わせる人もいる。職員は利用者に合わせベットの配置を考え、安全で居心地良く過ごせるような工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りの中、自分の部屋の掃除をして頂いたり、洗濯物を干して頂いたりして、自分で出来ることはして頂き、自立した生活、規律正しい生活、リズムのある生活を送って頂くよう心掛けています。		